

2024年6月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2024年5月10日

上場会社名 株式会社JDSC 上場取引所 東
コード番号 4418 URL https://jdsc.ai/
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 加藤 聡志
問合せ先責任者 (役職名) 取締役 CFO (氏名) 作井 英陽 (TEL) 03(6773)5348
四半期報告書提出予定日 2024年5月14日 配当支払開始予定日 ー
四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家、アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2024年6月期第3四半期の連結業績 (2023年7月1日~2024年3月31日)

(1) 連結経営成績 (累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年6月期第3四半期	11,165	650.8	46	△31.5	0	—	△65	—
2023年6月期第3四半期	1,487	—	67	—	53	—	20	—

(注) 包括利益 2024年6月期第3四半期 △58百万円 (ー%) 2023年6月期第3四半期 19百万円 (ー%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年6月期第3四半期	△4.91	—
2023年6月期第3四半期	1.55	1.45

(注) 1. 2023年6月期第2四半期連結会計期間より四半期連結財務諸表を作成しているため、2023年6月期第3四半期の対前年同四半期増減率については、記載しておりません。

2. 2024年6月期第3四半期の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、1株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2024年6月期第3四半期	8,091	3,569	43.3
2023年6月期	4,221	3,619	84.3

(参考) 自己資本 2024年6月期第3四半期 3,503百万円 2023年6月期 3,559百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年6月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2024年6月期	—	0.00	—	—	—
2024年6月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無: 無

3. 2024年6月期の連結業績予想 (2023年7月1日~2024年6月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		EBITDA	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
通期	15,000	—	120	—	200	—

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無: 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動） : 有
新規 1社（社名） メールカスタマーセンター株式会社

(注) 詳細は、添付資料P. 7「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項（当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動）」をご覧ください。

- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
② ①以外の会計方針の変更 : 無
③ 会計上の見積りの変更 : 無
④ 修正再表示 : 無

- (4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2024年6月期3Q	13,359,800株	2023年6月期	13,242,900株
② 期末自己株式数	2024年6月期3Q	81,500株	2023年6月期	81,500株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2024年6月期3Q	13,222,701株	2023年6月期3Q	12,903,200株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(四半期決算説明会資料の入手方法について)

当社は、2024年5月14日（火）に機関投資家及びアナリスト向け説明会（オンライン説明会）を開催する予定です。当日の説明会資料については、TDnet で開示するとともに、当社ウェブサイトにも掲載する予定です。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	5
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動)	7
(セグメント情報等)	8
(重要な後発事象)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当社グループは、「UPGRADE JAPAN」をミッションとして掲げ、「データの真価を解き放ち、革新の連鎖を起こしていく」というビジョンを実現すべく、データサイエンスや機械学習、AIといった最先端の技術を社会に実装することを目指しております。

当第3四半期連結累計期間における我が国経済は、新型コロナウイルスの収束と景気の緩やかな持ち直しの動きが見られた一方で、国際的な紛争の長期化や国内外のマクロ経済におけるインフレ・金融引締め傾向が見られる等、先行き不透明な状況が続きました。当社グループを取り巻く環境としましては、企業の競争力強化や人材不足への対応から、AIやDX（デジタルトランスフォーメーション）への急速な注目の高まりや、国内企業のIT投資の拡大局面が続いていること、「Chat GPT」をはじめとするLLM（大規模言語モデル）による技術革新が進展し生成AIの利活用に対する注目度が高まっていることなどが追い風となっております。また、政府の成長戦略において、産業競争力強化の観点からスタートアップ企業の支援及びスタートアップエコシステム強化の重要性が提唱されており、2022年は「スタートアップ創出元年」と定められ約1兆円の補正予算が閣議決定されました。2022年11月末には『スタートアップ育成5か年』が公表され、5年後の2027年度にはスタートアップへの投資額を10倍超の10兆円規模にする目標が掲げられました。

そのような環境の中で、当社は従来のDX活用/AI導入の支援などの労働集約的なビジネスに加えて、自社AIソリューションを中心とした非労働集約的な収益の獲得も目指しており、AIソリューション開発プロジェクト獲得や研究開発、先行投資としての積極的な人材採用に注力いたしました。「Chat GPT」をはじめとするLLM（大規模言語モデル）の活用をテーマとするプロジェクトも増加しており、AIの利活用に対する需要の高まりに機動的に対応する形で事業運営を行っております。また、グループ会社の株式会社ファイナンス・プロデュースではスタートアップの資金調達やM&Aを助言する案件を多数獲得・執行し、メールカスタマーセンター株式会社では紙のダイレクトメール（DM）発送代行において既存顧客の取引窓口の拡大や新規受注の獲得を行いました。

AIソリューション事業については、AIソリューションの横展開事例の増加や、新規顧客獲得や既存顧客からのアップセル等もあり好調に推移しました。フィナンシャル・アドバイザー事業については、ファイナンス戦略アドバイザー及びスタートアップの資金調達助言等の案件を複数執行しました。マーケティング支援事業については、紙のダイレクトメール（DM）発送代行において既存顧客の取引窓口の拡大や新規受注の獲得が順調に進展しました。それらの結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は11,165,970千円（前年同期比650.8%増）、売上総利益は1,139,250千円（前年同期比50.0%増）となりました。

AIソリューション開発プロジェクト（Joint R&D）の獲得、プロダクトやプラットフォームの構想及び開発、人材採用といった先行投資を引続き積極的に進めたことに伴い、営業利益は46,132千円（前年同期比31.3%減）となりました。

メールカスタマーセンター株式会社の連結子会社化に伴う借入金の支払手数料の発生に伴い、経常利益は81千円（前年同期比99.8%減）、親会社株主に帰属する四半期純損失は65,033千円（前年同期は親会社株主に帰属する四半期純利益20,084千円）となりました。

なお、当社グループの第3四半期連結累計期間におけるセグメント別の損益状況については「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記（3）四半期連結財務諸表に関する注記事項（セグメント情報等）」をご参照ください。

(2) 財政状態に関する説明

① 資産、負債及び純資産の状況

(資産)

当第3四半期連結会計期間末における資産合計8,091,778千円となり、前連結会計年度末に比べ3,870,669千円増加しました。これは主に、メールカスタマーセンター株式会社の連結子会社化に伴い、受取手形、売掛金及び契約資産が2,633,367千円、顧客関連資産が1,228,500千円、のれんが634,347千円増加したことによるものであります。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末における負債合計は4,522,638千円となり、前連結会計年度末に比べ3,921,239千円増加しました。これは主に、メールカスタマーセンター株式会社の連結子会社化に伴い、買掛金が2,005,553千円、長期借入金が1,443,509千円増加したことによるものであります。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産合計は3,569,140千円となり、前連結会計年度末に比べ50,569千円減少しました。これは主に、親会社株主に帰属する四半期純損失を計上したことにより利益剰余金が65,033千円減少したことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2024年6月期の業績予想及び業績予想の前提となる条件につきましては、2023年11月9日に公表いたしました内容から変更はありません。当資料に記載した予想数値は、現時点での入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績等は今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年6月30日)	当第3四半期連結会計期間 (2024年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,146,414	2,488,455
受取手形、売掛金及び契約資産	198,810	2,832,178
前払費用	29,062	40,401
その他	65,448	74,693
貸倒引当金	—	△174
流動資産合計	3,439,736	5,435,553
固定資産		
有形固定資産	62,530	74,837
無形固定資産		
のれん	164,397	798,745
顧客関連資産	—	1,228,500
その他	404	455
無形固定資産合計	164,801	2,027,700
投資その他の資産		
その他	573,038	572,039
貸倒引当金	△18,998	△18,353
投資その他の資産合計	554,040	553,686
固定資産合計	781,372	2,656,224
資産合計	4,221,108	8,091,778
負債の部		
流動負債		
買掛金	—	2,005,553
1年内返済予定の長期借入金	2,979	254,436
未払金	87,386	122,555
未払法人税等	107,174	48,029
未払消費税等	49,578	21,051
契約負債	77,293	44,356
賞与引当金	157,412	4,527
役員賞与引当金	44,645	212
その他	42,367	104,229
流動負債合計	568,837	2,604,949
固定負債		
長期借入金	12,239	1,455,748
退職給付に係る負債	—	30,295
資産除去債務	20,177	20,293
その他	144	411,351
固定負債合計	32,561	1,917,688
負債合計	601,398	4,522,638
純資産の部		
株主資本		
資本金	115,831	12,955
資本剰余金	3,652,896	3,764,356
利益剰余金	△148,582	△213,616
自己株式	△60,465	△60,465
株主資本合計	3,559,679	3,503,229
新株予約権	1,016	828
非支配株主持分	59,013	65,081
純資産合計	3,619,709	3,569,140
負債純資産合計	4,221,108	8,091,778

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年7月1日 至 2023年3月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年7月1日 至 2024年3月31日)
売上高	1,487,185	11,165,970
売上原価	727,588	10,026,720
売上総利益	759,597	1,139,250
販売費及び一般管理費	692,417	1,093,117
営業利益	67,179	46,132
営業外収益		
受取利息	32	252
受取報奨金	300	—
業務受託料	525	730
貸倒引当金戻入額	—	3,549
その他	190	1,332
営業外収益合計	1,047	5,864
営業外費用		
支払利息	90	10,594
支払手数料	120	20,413
投資事業組合運用損	3,109	5,888
持分法による投資損失	8,675	14,971
解約違約金	2,672	—
その他	—	47
営業外費用合計	14,669	51,916
経常利益	53,557	81
特別利益		
固定資産売却益	46	10
新株予約権戻入益	—	21
特別利益合計	46	31
特別損失		
固定資産売却損	212	44
固定資産除却損	93	—
特別損失合計	306	44
税金等調整前四半期純利益	53,298	67
法人税、住民税及び事業税	67,404	43,891
法人税等調整額	△33,171	15,140
法人税等合計	34,232	59,032
四半期純利益又は四半期純損失 (△)	19,066	△58,965
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失 (△)	△1,018	6,068
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失 (△)	20,084	△65,033

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年7月1日 至 2023年3月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年7月1日 至 2024年3月31日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	19,066	△58,965
四半期包括利益	19,066	△58,965
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	20,084	△65,033
非支配株主に係る四半期包括利益	△1,018	6,068

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、2023年9月26日開催の定時株主総会の決議に基づき、2023年11月10日付で減資の効力が発生し、資本金が107,167千円減少し、この減少額全額をその他資本剰余金へ振り替えました。また、新株予約権の行使により資本金が4,291千円、資本剰余金が4,291千円それぞれ増加しております。これらの結果、第3四半期連結会計期間末において、資本金が12,955千円、資本剰余金が3,764,356千円となっております。

(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動)

第2四半期連結会計期間より、メールカスタマーセンター株式会社の株式を取得したため、同社を連結の範囲に含めております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 2022年7月1日 至 2023年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			合計
	AIソリューション事業	フィナンシャル・アドバイザリー事業	マーケティング支援事業	
売上高				
外部顧客への売上高	1,453,271	33,914	-	1,487,185
セグメント間の内部売上高又は振替高	-	-	-	-
計	1,453,271	33,914	-	1,487,185
セグメント利益又は損失(△)	75,299	△8,119	-	67,179

(注) セグメント利益又は損失の合計額は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

II 当第3四半期連結累計期間(自 2023年7月1日 至 2024年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			合計
	AIソリューション事業	フィナンシャル・アドバイザリー事業	マーケティング支援事業	
売上高				
外部顧客への売上高	1,322,011	114,260	9,729,698	11,165,970
セグメント間の内部売上高又は振替高	-	-	-	-
計	1,322,011	114,260	9,729,698	11,165,970
セグメント利益又は損失(△)	△24,241	△1,008	71,382	46,132

(注) セグメント利益又は損失の合計額は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

第2四半期連結会計期間において、メールカスタマーセンター株式会社の株式を取得し連結子会社化したことに伴い、「AIソリューション事業」及び「フィナンシャル・アドバイザリー事業」の2区分から、「AIソリューション事業」、「フィナンシャル・アドバイザリー事業」及び「マーケティング支援事業」の3区分に変更しました。

なお、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報は、変更後の区分に基づき作成したものを記載しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

第2四半期連結会計期間において、メールカスタマーセンター株式会社の株式を取得し連結子会社化したことに伴い、前連結会計年度末に比べ、「マーケティング支援事業」において、のれんが653,316千円増加しております。

(重要な後発事象)

資本業務提携及び第三者割当増資による新株式の発行

1. 当社は、2024年5月10日付の取締役会決議により、以下のとおり、SCSK株式会社（以下「SCSK」といいます）との戦略的な資本業務提携を行うこと及び割当予定先に対する第三者割当による新株式の発行（以下「本第三者割当」という）を決議し、本資本業務提携についての契約を締結いたしました。募集の概要は以下のとおりであります。

① 募集の概要

(1) 払込期日	2024年7月1日
(2) 発行新株式数	普通株式413,200株
(3) 発行価額	1株につき864円
(4) 調達資金の額	357,004,800円
(5) 資本組入額	1株につき432円
(6) 資本組入額の総額	178,502,400円
(7) 募集又は割当方法 (割当予定先)	第三者割当の方法により、そのすべてをSCSKに割り当てます。
(8) その他	上記各号については、金融商品取引法に基づく有価証券届出書の効力発生を条件としています。

② 募集の目的及び理由

当社は、SCSKとの間で協業に向けた協議を続けてまいり、今般、長期的な関係強化と資本面における提携関係を構築することを目的とし、同社に対する第三者割当増資を実施することといたしました。

本第三者割当により、グループにおける成長事業への投資資金に充当することは、当社グループの売上の増加や収益率の向上に繋がり、ひいては企業価値の向上が期待されます。一方で、SCSKグループは、当社グループの強みである、ビジネスデベロップメント、データサイエンス及びエンジニアリングの三位一体のチーム体制による産業課題の掘り起こし、AIによる解決策の提示、AIアルゴリズムの開発及びAIソリューションの実装などの競争優位性を活用することで事業拡大が見込まれることから本第三者割当を決定いたしました。

今後、SCSKグループが有する顧客基盤やITシステム関連の知見及びノウハウと、当社グループのAI・データサイエンスの技術力や未解決の産業課題を解決する事業開発力を掛け合わせることで、当社の企業価値を更に向上すべく、SCSKグループ及び当社グループの事業面における提携関係の強化・発展に向けた協議を進めてまいります。

③ 調達する資金の額、使途及び支出予定時期

(1) 調達する資金の額

払込金額の総額 (円)	発行諸費用の概算額 (円)	差引手取概算額 (円)
357,004,800円	4,949,500円	352,055,300円

(注) 1. 発行諸費用の概算額には、消費税等は含まれておりません。

2. 発行諸費用の概算額の内訳は、登記関連費用及び弁護士費用等の合計額であります。

(2) 調達する資金の具体的な使途及び支出予定時期

具体的な使途及び支出予定時期につきましては、以下のとおりです。

具体的な用途	金額 (百万円)	支出予定時期
人材投資	252	2024年7月～2027年6月
研究開発	50	2024年7月～2027年6月
経営基盤の強化	50	2024年7月～2027年6月
合計	352	

(注) 上記の資金使途に充当するまでの間、当該資金は銀行預金で保管する予定です。